

経営と健康

令和の米騒動

講談師 一龍斎貞花

「ご飯食べた？」

「食べてない。パン食べた」なんて主食は米です。

「風邪をひいたらきちんと御飯を食べて睡眠をとること。薬も注射もいらん」という医師がいたほど。

昨年の夏から米不足の上、外国人旅行者が美味いと米を食べ、おにぎり人氣もあり前年比1.9倍に高騰。

戦後度々話題になったエンゲル係数（消費支出に占める食費の割合）が今またいわれている。

あと一箸食べて下さい。古古米の古の字が一つなくなりますと言っていたのが大違い。遺跡から籾がらが出たという記録もある。昨秋収穫によって値が下がるといわれたが下がらない。令和の米騒動とも。されば米騒動の歴史を振り返ってみよう。

飢饉による米不足

三大飢饉といわれる享保、天明、天保時代、冷害、旱魃、水害、害虫の異常発生、火山の噴火等。

中でも天明の飢饉は、弘前藩10万人、南部藩5万人、全国の餓死者30〜50万人とも死者の人肉喰らう者もありといわれる日本史上最大の飢饉、7年間も飢饉が続いたが、幕府の威信にかかわると詳細発表しなかった。

それでも松前藩では、幕府の越後米払下げ、関西から九州にかけて近江商人を通じて米を買い集め領内の食糧安定に努めている。

江戸時代1俵、付加税2升を合わせ約60kg、現在の金額で10万円の高値も、文久3年、旗本、下級武士に救済策と

して300石以下は拝借金、100俵以下は下賜金。しかし飢饉の都度でなく、大商人や米屋を襲う「打ちこわし」米騒動は江戸時代しばしば。ドラマだけではありません。

幕府と長州の戦い直前、品川宿の窮民たちが米屋、質屋を襲撃。麻布、芝田町、浜松町、神田、四谷、赤坂の町会所は米を放出、困窮者独身に600文、2人暮らし以上は1人500文の救済措置。いいこともしています。

慶応2年（1860）開国の影響や、幕末の動乱でも値上がり。

寺内正毅内閣総辞職

大正7年（1918）、シベリア派兵の方針を決めたことから、投機目当ての米買い占めにより高騰。翌年10kg

3万円、庶民は手が出ない。現在10kg 8千円と比べても大変な高値。

富山県の漁村の主婦たちが安売りを求めて米屋へ押しかけ、これを新聞が「越中女房一揆」と書き立て、大都市へと騒動が広がり、8月11日〜16日の間に400件を超える米騒動に発展。

政府は9月から米の安売り、警察や軍隊を出動させ検挙者2万5千人、検事処分8253名、無期懲役14名、10年以上59名、和歌山県では死刑2名。事態の收拾を図るも騒動は2カ月続き、遂に時の寺内正毅内閣総辞職。

イザ女性が立ち上がると怖いですよ。米騒動が起らなかったのが、青森、岩手、秋田、沖繩のみ。米どころの新潟、宮城でも起きている。

商人に対し米価の引下げを求め、何とか収まった。

本誌がお手元に届く頃には、大手業者の入札が終わっているが、いくらで消費者の手に渡るか。小出しにしてスーパーの米棚相変わらず空っぽは困る。

明治維新後も、全国的米騒動3回。大塚護国寺、渋谷長谷寺、三田功運寺、本所回向院、谷中天王寺や神田佐久間町河岸で貧民に炊き出し。現在上野、新宿、渋谷などで炊き出しが行われているが、100人ほどだったのが今や300人とも。行政が行うのではなく善意のボランティア、米の高騰から大変でしょう。

戦後も米不足からカリフォルニア米の輸入。1993年低温と日照不足から翌年外国から緊急輸入。細長い米、パサパサで粘り気がなく日本人好みでなく不評だった。

55年前、初めてパリへ行った時、「なんだパサパサで美味くないや」と同行の人と。リゾットなど日本の米はべたつくので、細長いパサツとした米を使用していた。中国の米もねばり気がなく、日本人には不評だった。それが今や、外国人観光客が美味しい、美味しいと日本米飯を。

江戸時代の給料は、何石、何人扶持

と米、これを札差しの店で金と交換。不作の時は、米に代る産物によって藩財政を支え、栄えさせたり、米の獲れない藩も同様。経営手腕です。

名君保科正之

「火事だ、火事だ」

明暦3年1月の大火事、江戸城本丸に天守閣はじめ、江戸の街の大半を焼失、三代家光の腹違いの弟で、四代家綱の後見役保科正之が

「市民が飢えと寒さのため餓死者も出ています。一日千俵の米の炊き出し、今の千代田区、中央区がほぼ全焼、間口一間につき3両1分ずつの復興のための義援金を出しましょう」

「本丸も天守閣も再建しなければいけない、そんなに出したらご金蔵も、米蔵も空っぽになりますぞ」

老中が反対するも

「なんのために米を備蓄しているんです。困った時に出すためではありませんか」

こうして毎日炊き出し、更に参勤交代で江戸に出府している23大名に特別に帰国命令。江戸の約6割が武士でしたから、米の需要を減らし価格が安定。

「本丸の代わりに二一の丸で政務は行え

ます。今は戦はありません。天守閣より復興です」

かくして餓死者は無くなり、復興のために16万両、4代家綱の時代1両10万円で計算すると160億円放出され復興が早まります。

戦闘機1機分で能登の復興もどんなに早まりますか。

素晴らしい名君がいたんですねー。今の政治家と比べないで下さい。イヤイヤ優れた政治家だからこそ、重い腰を上げ備蓄米放出したんでしょう。

八代將軍吉宗は、米不足に対処するため青木昆陽の進言により甘藷（さつま芋）の奨励。

食糧難から昭和19年頃から、小学校の校庭でもさつま芋を植えていました。戦後もさつま芋が食されました。

さつま芋の粉を蒸した団子、真っ黒でした。当時はいいおやつでした。さつま芋入りの御飯、母はお弁当には芋を除けてくれました。拙文お読みの方のほとんどが信じられないことでしょう。今や焼き芋は大人気、料理屋でも芋入りの御飯、高級銘柄の芋の窃盗も少なくありません。

スーパーの棚も空っぽでした。23年5kg 2,500円、昨年夏には4,000円。

外食店ではあまりの高騰に、外国米をブレンドして供する店、お代わり自由だった店がお代わり無しや、御飯の量を減らしたり。

米の需要が減ったことから、米を作るなど減反政策。今や米が不足だから作れといつても休耕田はすぐに作れない。米を作っても利益が上がりないと米農家は減少。しかし米どころでは世間が不況でも豊作の時は好景気。

プロ野球でも、ドラゴンズ細川選手が夏場に入り調子が落ちてきた時、

「御飯の食べ過ぎで動きが鈍った」からと、選手食堂から御飯を無くした立浪監督の米騒動なんというのもありました。

日本人にとって欠かすことの出来ない米不足。高騰したところで備蓄米を出していたら、価格が下がらなければ追加放出というが、米騒動の起らないことに呑気なもの。名君保科正之の即決と、落札した業者も是非出して下さい。

参考文献 日本史辞典、ウィキペディア

江戸東京学辞典